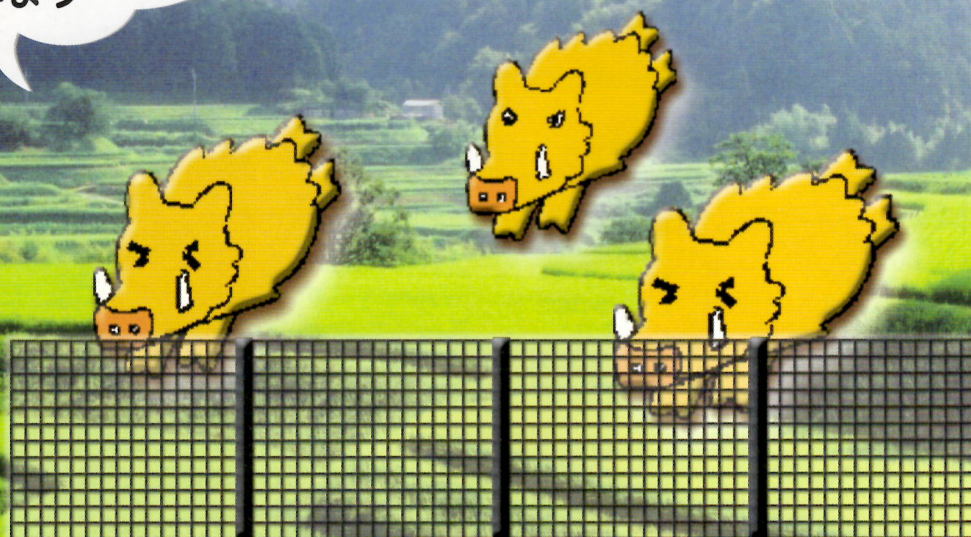


イノシシの行動特性に応じた 防除技術の成果紹介

防護柵や檻があって
農作物が食べられ
ないよう～

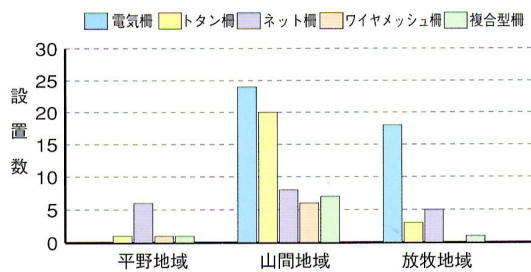


イノシシ被害対策技術開発グループ

イノシシ防護柵の設置・管理などの違いによる効果の差は？

中山間地域には、様々な立地条件の耕作地があるが、 防護柵の設置状況や被害発生に違いがあるのか？

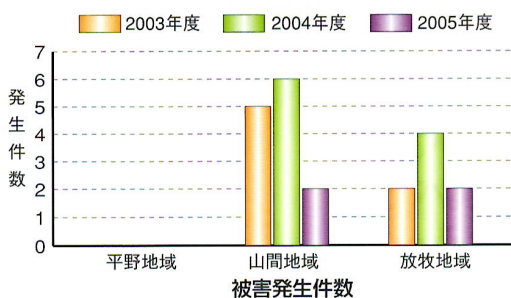
島根県大田市の平野地域、山間地域および放牧地域（各約1 km²）において、イノシシ対策用の防護柵の設置状況と被害発生状況を2003～2005年に調査。



防護柵の種類（2005年）

平野地域ではネット柵が、山間地域では電気柵とトタン柵が、また放牧地域では電気柵の設置が多かった。年々電気柵の割合が高くなっていた。

平野地域では、調査期間中に被害発生はなかったが、山間地域では被害発生が多かった。また、放牧地域では比較的被害が少なかった。



被害発生件数

- 平野地域は、往來の激しい道路やコンクリート畦畔、大きな河川によって囲われており、被害発生はなし。
- 放牧地域は、牛などの放牧によって耕作放棄地が管理されており、被害発生は少なかった。ただし、電気柵の設置などの対策は必要。
- 山間地域は、電気柵を大規模に設置・管理するなど積極的な被害回避策の展開が必要。



一年中設置されている電気柵

- イノシシに学習させないためにも、通年設置や植え付け直後からの早期の設置が必要。
- 防護柵は耕作地の全周を囲うなどイノシシの侵入経路を考えて設置することが重要。
- 防護柵は、集落など共同で大規模に設置すると経済的であり、管理も効率的。



侵入を受けたネット柵

注意点

- ネット柵では効果が低く、電気柵は設置後の点検・管理が大事！
- 防護柵周辺や耕作地周辺、耕作放棄地の草刈り管理が重要！

研究機関名

島根県中山間地域研究センター鳥獣対策グループ

ワイヤーメッシュを利用したイノシシ用簡易防護柵の防除効果

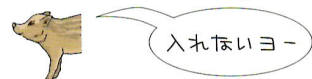
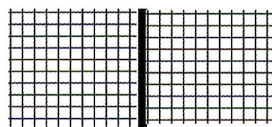
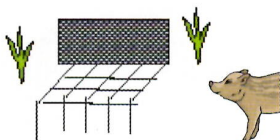
様々な防護柵で移動・侵入制限効果について検証

その結果は・・・

ワイヤーメッシュ柵



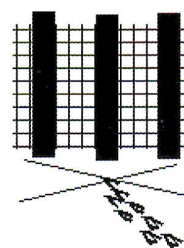
獣道に設置して調査したら23分間
ねばったあと山へ引き返した！



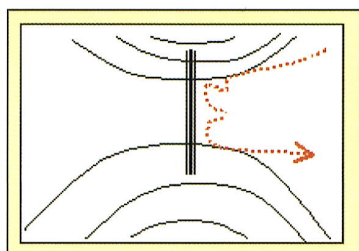
立て柵として利用すると効果あり

地上10cmに平置きしたら渡れない
個体が見られた！

恒久フェンス柵



周辺に痕跡ほとんどなし



設置後は農地への侵入なし

山腹へ行動域を移した

いずれも農地への移動・侵入制限を**確認**した！

注意点

- 1) ワイヤーメッシュ柵は、窪みや斜面から侵入される場合があるので、支柱をしっかり固定し、トタン、杭などを併用しながら地形に応じて設置の工夫を行う。
- 2) ワイヤーメッシュは5～6mmの太さで10cmの素材を使うとよい。
- 3) トタンをワイヤーメッシュの手前に設置すると前が見えにくくなり、イノシシの侵入防止効果が高まる。

研究機関名

滋賀県農業技術振興センター湖北分場

農地に侵入するイノシシの生活を探る

捕っても被害が無くならない？

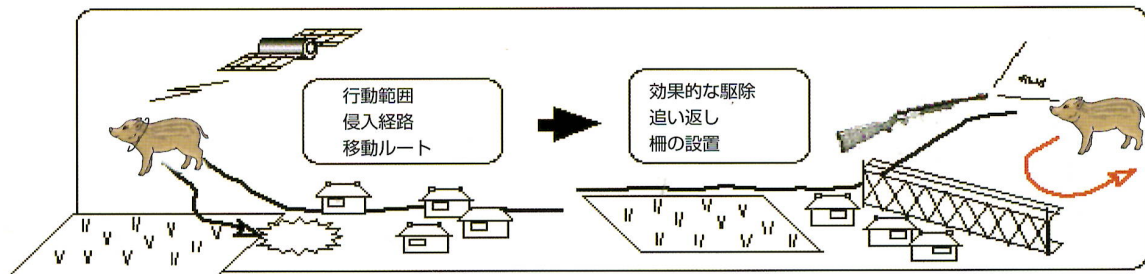
イノシシの農地侵入実態が不明

イノシシの駆除は被害対策として有効か？

被害対策に対するイノシシの行動も不明

調査イメージ

対策イメージ



GPSを使った詳細な追跡により実態を把握するため、イノシシへの装着法の確立が課題

理由

- 首や胴回りの太さ
(体型・体重の季節変化)
- ぬた打ち擦りつけに耐える素材

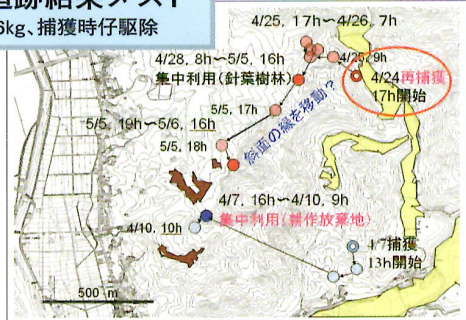
新しい
装着法を
開発



農地付近で捕獲したイノシシにGPSを装着して追跡した結果

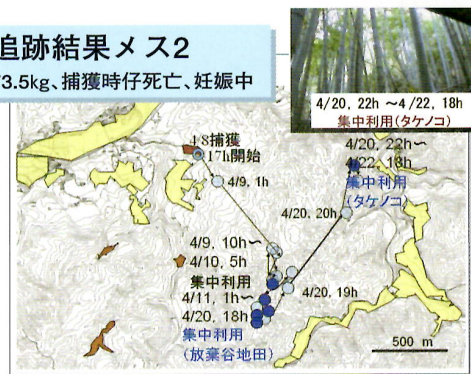
追跡結果メス1

56kg、捕獲時仔駆除



追跡結果メス2

73.5kg、捕獲時仔死亡、妊娠中



■檻への反応：同じイノシシが続けて入る

■エサ場の集中利用：耕作放棄地や竹藪のタケノコに執着する。

研究機関名

近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究室

イノシシの行動特性を利用した捕獲技術の開発

イノシシの行動特性からみた箱わなに期待される要件

行動特性

- 追いつめられると攻撃的
- グループ性が強い
- なわばり性なし
- 警戒心強く、学習能力高い



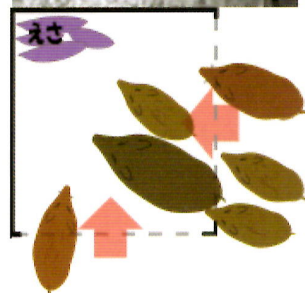
期待される要件

- 堅牢性、対人安全性
- グループ捕獲、高捕獲率
- 軽量、運搬性
- 誘引効果の高い餌

これまでの箱わなの構造についての知見を基に、4つの箱わなを試作し、様々なイノシシの反応を実際に調べながら改良を加えた結果、イノシシが警戒せずにわな内に入り、捕獲効率が最も優れた「隣接2面落し戸式小型箱わな」図1を完成させました。



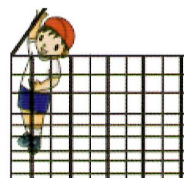
図1 隣接2面落し戸式小型箱わな



間口が広いから警戒しない



分解でき運搬性に優れる



脱出口の設置



足を挟まない設計

留意点

この箱わなは、受注生産ですので、注文数によっては多少の時間がかかります。

研究機関名

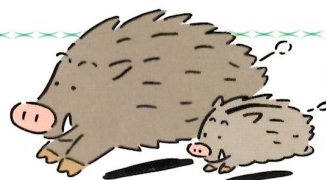
(株)九州自然環境研究所野生動物保護管理研究室

コラム：居着くイノシシと彷徨うイノシシ

調査方法が明記された研究では、多様な生息地にもかかわらず、メスの行動圏は67～437ヘクタールと以外に狭い（海外研究も含む）。本プロジェクトで調べた島根県大田市での成獣メスあるいは亜成獣の行動圏の大きさも、ほぼ100ヘクタールどまりだ。一方、500～2,500ヘクタールなどと、かなり大きく見積もる研究者もいるが、その根拠は示されていない。乾期に食物と水を求めて長距離を歩くとの報告もある。狩猟で追い立てられて彷徨ったり、雪による大移動もあるかもしれない。逆に、食物などが十分にあって危険がないと、狭い地域に永く留まる。一般的に、動物の行動圏の大きさは、利用する資源の豊富さと反比例する。被害が特定の地域にある場合、居着いたイノシシを駆除しないと被害は収まらない。

イノシシは藪の中を歩き回って食べ物を探すが、移動には決まった道をよく使う。猟師はこの道を「ウジ」あるいは「ハシリ」と呼ぶ。イノシシ道の中には人がつくった山道かと思うほど立派なものもある。また、歩きよいのか、人の通る道や道沿いをよく利用する。イノシシの行動圏はエサ場や休息場所などの生活必須地域とそれを結ぶものの道のネットワークから成り立つ。この移動ルートを遮断するのも、イノシシの行動を制御する一つの方法である。

（近畿中国四国農業研究センター 仲谷淳）



問い合わせ研究機関名

（独）近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究室
TEL：0854-82-0060、FAX：0854-82-2280

（株）九州自然環境研究所野生動物保護管理研究室
TEL：096-232-7590、FAX：096-292-3056

滋賀県農業技術振興センター湖北分場
TEL：0749-82-2079、FAX：0749-82-4759

島根県中山間地域研究センター鳥獣対策グループ
TEL：0854-76-3818、FAX：0854-76-3758

平成18年2月発行

編集責任者

（独）農業・生物系特定産業 技術研究機構・近畿中国四国農業研究センター
滋賀県農業技術振興センター湖北分場